



い が し り つ う え の ひ が し しょう が っこう
伊賀市立上野東 小学校

こう ちょう し つ

校長室だより

2023・9・28

い が し みどりがおかなかまち
伊賀市緑ヶ丘中町4352

てんわ
電話 21-0314

い が し り つ しょう ちゅう が っこう
伊賀市立小中学校では、^{じんけん}「人権」^{きょういく すいしん}「キャリア」教育の推進とともに^{がくりよく}「学力」
^{こうじょう きょういく かつどう}の向上を教育活動の柱として^{とりぐみ てんかい}取組を展開しています。

^{たし がくりよく み つ}確かな学力を身に付けることは、^{しんろせんたく ひろ}進路選択を広げ、「夢の実現」につながると
ともに、「^{べんきょう}勉強がわかること」「^{がくりよく こうじょう}学力が向上すること」は子どもの^こ自信となり、
^{い い ゆた にんげんけいせい うなが}生き生きとした豊かな人間形成を促します。

^{がっこう}学校は、どの子にとっても^{こ きょうみぶか}興味深くわかる授業を行うこと、また^{かてい れんけい}家庭と連携
^{かていがくしゅう じゅうじつ はか}し、家庭学習の充実を図ることで、子どもたちが^{こ たし がくりよく み}確かな学力を身につけるこ
とをめざしています。

^{がっき}1学期、^{ねんせい}4・5年生は三重県教育委員会が作成した「^{みえスタディ・チェック}みえスタディ・チェック」
を、^{ねんせい もんぶかがくしょう さくせい}6年生は文部科学省が作成した「^{ぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきょうちょうさ}全国学力・学習状況調査」を受けまし
た。その^{けっか}結果と今後の^{こんご}取組をお伝えします。

1 教科の正答率について

がくねん 学年 きょうか 教科	ねんせい 4年生		ねんせい 5年生		ねんせい 6年生			
	ほんこう 本校	みえけん 三重県	ほんこう 本校	みえけん 三重県	ほんこう 本校	い が し 伊賀市	みえけん 三重県	ぜんこく 全国
こくご 国語	△	39.4	△	40.3	▼	69	67	67.2
さんすう 算数	△	44	△	51.4	▼	65	62	62.5
りか 理科			—	46.5				

※ ^{がっこう すうち こうひょう}学校の数値は公表できないことになっていますので、^{ねんせい ぜんこく}6年生は全国と、4・5

^{ねんせい みえけん ひかく}年生は三重県と比較して、^{おな ばあい}ほぼ同じ場合は「—」、^{うわまわ ばあい}上回っている場合は「△」、^{したまわ}下回
っている場合は「▼」で表現しています。

2 6年生(全国学力調査)の結果について

6年生の結果をお伝えします。左の表の通り、伊賀市では、国語・算数ともに正答率は全国よりも高くなっています。が、本校の正答率は全国よりも低い傾向にあります。



● 国語では・・・

- 本校では、「図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考え方と比較しながら、自分の考えをまとめることができる」についての問題の正答率は、全国と比較して高かったです。
- しかし、「日常よく使われる敬語を理解している」「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる」「目的に応じて、文章と図表などを結びつけ、必要な情報を見つけることができる」などの問題の正答率は全国と比較して低かったです。

● 算数では・・・

- 本校では、「正方形の意味や性質について理解している」についての問題の正答率は全国並みでした。
- しかし、「百分率(%)で表された割合について理解している」「わり算の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる」「()を用いた式や、たし算とかけ算が混じった式を場面と関連づけて読み取ることができる」など、10項目以上の問題で正答率が全国と比較して低かったです。

3 4・5年生(みえスタディチェック)の結果について

- 本校では、4・5年生ともに、国語・算数の両教科において、三重県の平均正答率を15～30ポイントと大きく上回る結果でした。また、理科においての正答率は、三重県とほぼ同じでした。

• みえスタディチェックは毎年行いますが、過去に出題された問題、あるいは類似問題が出題されます。子どもたちは定期的に、過去に出題された問題に取り組んできました。今回、みえスタディチェックの結果には、その成果がしっかりと表れていると言えます。それに対して、全国学力調査は毎年、出題される問題の傾向が変わり、類似問題がほとんどありません。今回の結果から言えることは、本校の子どもは、「やったことはできるが、やっていないことは苦手」といった傾向があるということです。

4 生活習慣・学習習慣と学力の関係について

全国学力調査では、教科の理解力以外に生活習慣や学習



習慣についても児童に聞きました。

- 本校の6年生は、「人の役に立つ人間になりたいと思う」(98%)「人が困っている時は進んで助けている」(95%)「学校に行くのは楽しいと思う」(90%)と、これらの項目について肯定的な回答をしている児童の割合が全国と比較して高いです。また、「自分には良いところがある」に肯定的に回答している児童は86%と、昨年(78%)からさらに増えています。
- 一方、「将来の夢や目標を持っている」「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」に肯定的な回答をしている児童の割合が全国と比較して低いです。中でも、昨年は肯定的な回答の割合が高かった「読書が好き」については65%と、全国や三重県と比較しても低い割合でした。
- これまでのような、「平日や休日の勉強時間」や「平日、家でのSNSや動画の視聴時間」、「平日、家でのゲーム時間」についての質問はありませんでしたが、「これまでの授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り

組んでいましたか」、「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」など、主体的に学習に取り組んでいるかどうかをみる質問がありました。

つまり、「学習は、教えられることではなく、自ら探求すること」として、主体的に学ぶことが今、求められている力であると言えます。

5 ご家庭に協力いただきたいこと

学力向上は、授業改善やななまづくりといった学校での教育活動と併せて、家庭学習や生活習慣の改善など、家庭と協力しながら進めることが重要です。学力向上のために、子どもたちが次のことをがんばるよう、ご理解とご協力をお願いします。

① 基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯等）を身につけ、時間

を守って、自分で学校に来る。

② 毎日、家での学習時間（何時から何時まで）を決めて、勉強
する。

③ 毎日、必ず本を読む。（学校での読書時間を含む。）

【保護者のみなさんへ】

• 毎日、学校に来ることで、子どもは成長します。朝、自分で登校することは、子どもが自分自身で生きる力の基盤となり、時間やルールを守ることが正しい人間形成につながることをご理解ください。

• 勉強時間は「何時間」ではなく、必ず「何時から何時まで」と、時間帯を決めて取り組ませてください。

• 「勉強しなさい」だけでは子どもは勉強に向きません。勉強が大事であるという雰囲気、ご家庭の中につくっていただくことが効果的です。読書習慣をつけるのもその一つです。以上、ご協力をよろしくお願いします。